

- 本村は、元来、緑豊かな島だったが、先の大戦で激しい戦火に遭い一木一草まで焼き尽くされ文字どおり焦土と化した。
- 村民の先人達は戦後復興の中から、寸暇を惜しまず村民総出で海岸沿いや主要道路沿いにモクマオウを中心に植栽し美しい緑を蘇らせたが、最近では、既存の防風・防潮林も老木化が見立ち季節風や台風等の影響で倒木または危険木となり、自然災害を受けやすい状況となっていることから、これらの整備が急務な課題となっている。
- 令和5年度においては、防風林・防潮林の重要性について理解を深めるイベントにおいて植栽を実施した。

□ 事業内容

伊江村防風林の日事業

- ・ 令和5年11月16日の「伊江村防風林の日」のイベントにおいて、植栽を実施した。また、防風・防潮林の重要性について理解を深めるポスター掲示等を行った。

【事業費】742千円（うち譲与税622千円）

【実績】植栽 400本

□ 取組の背景

- ・ 既存の防風・膨張林の老朽化が目立ち、自然災害を受けやすい状況となっているため、整備が必要である

□ 工夫・留意した点

- ・ 植栽樹種の選定には、防風・防潮の効果が得られる樹種とした。

□ 取組の効果

- ・ 村民のほか、関係者の参加により、防風・防潮林の整備の重要性の理解を深めることのできる場となった。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：622千円		②私有林人工林面積（※1）：15 ha	
③林野率（※1）：24.0%	④人口（※2）：4,118人	⑤林業就業者数（※2）：1人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

